

《担当者名》○吉田晋 ysdssm@hoku-iryo-u.ac.jp 鈴木伸弥 佐藤一成 岩部達也

【概要】

大脳、間脳、脳幹、小脳などの構造や機能および脳血管支配などについて復習し、脳血管疾患やパーキンソン病、脊髄小脳変性症などの病態や障がい像を理解する。またこうした疾患の画像所見や機能障害、能力低下の評価方法および標準的なりハビリテーション介入について学び、その病期や重症度に合わせた介入方法について理解する。

【学修目標】

脳血管疾患や神経難病に対する理学療法の理論的背景を知り、様々な病態へ適応する能力を身につけるために、各種中枢神経疾患の概要や基本的な評価、治療について理解する。

1. 中枢神経系の機能構造および損傷による障害について説明できる。
2. 各種疾患、病態に応じた適切な評価方法を選択できる。
3. 各種疾患の病期に応じた標準的リハビリテーションの概要を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	中枢神経の機能と構造1	大脳皮質の構造や機能および運動との関連について学ぶ。	吉田晋
2	中枢神経の機能と構造2	間脳、脳幹、小脳などの構造や機能および運動との関連について学ぶ。	吉田晋
3	中枢神経の損傷と回復1	脳卒中などの中枢神経疾患の病態について学ぶ。	吉田晋
4	中枢神経の損傷と回復2	中枢神経損傷後の回復プロセス、神経可塑性について学ぶ。	吉田晋
5	脳血管疾患の病態と評価1	CTやMRI画像の診方とそこから予想される機能障害との関連について学ぶ。	吉田晋
6	脳血管疾患の病態と評価2	脳血管疾患によって生じる運動障害、感覚障害などの機能障害について学ぶ。	吉田晋
7	脳血管疾患の病態と評価3	脳血管疾患によって生じる、意識障害や失行や失認といった高次脳機能障害の症状と責任病巣および運動や行動への影響について学ぶ。	吉田晋
8	脳血管疾患の病態と評価4	脳血管疾患によって生じる基本動作能力低下に対する評価法について学ぶ。	佐藤一成
9	脳血管疾患の動作障害とその評価1	脳卒中に特有な基本動作パターンとその原因となる機能障害について理解し、臨床的な動作分析方法を身につける。	吉田晋
10	脳血管疾患の動作障害とその評価2	脳卒中に特有な異常歩行パターンとその原因となる機能障害について理解し、臨床的な歩行分析方法を身につける。	吉田晋
11	脳血管疾患の予後予測と目標設定	統計学的に裏付けされた方法を用いて予後予測し、目標設定するプロセスについて学ぶ。	吉田晋
12	脳血管疾患のリハビリテーション1	脳卒中の急性期のリスク管理、早期離床について学ぶ。	吉田晋
13	脳血管疾患のリハビリテーション2	回復期以降の標準的リハビリテーション介入について学ぶ。	吉田晋
14	頭部外傷のリハビリテーション	頭部外傷に特徴的な症状および標準的リハビリテーション介入について学ぶ。	吉田晋
15	パーキンソン病の病態と評価	パーキンソン病の病態と障害およびその評価法について学ぶ。	岩部達也
16	パーキンソン病の動作障害	パーキンソン病に特有な動作障害とその評価法について学ぶ。	岩部達也

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
17	パーキンソン病のリハビリテーション	パーキンソン病の各病期に応じた標準的リハビリテーション介入について学ぶ。	岩部達也
18	脊髄小脳変性症の病態と評価	脊髄小脳変性症の病態と障害およびその評価法について学ぶ。	鈴木伸弥
19	脊髄小脳変性症の動作障害	脊髄小脳変性症に特有な動作障害とその評価法について学ぶ。	鈴木伸弥
20	脊髄小脳変性症のリハビリテーション	脊髄小脳変性症の各病期に応じた標準的リハビリテーション介入について学ぶ。	鈴木伸弥
21	その他の神経筋疾患に対するリハビリテーション1	筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの運動ニューロン疾患の病態と各病期に応じた標準的リハビリテーション介入について学ぶ。	吉田晋
22	その他の神経筋疾患に対するリハビリテーション2	多発性硬化症やギランバレー症候群などの脱髄疾患の各病期に応じた標準的リハビリテーション介入について学ぶ。	吉田晋
23	まとめ	重要事項について整理する	吉田晋 鈴木伸弥 佐藤一成 岩部達也

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

試験結果の詳細については適宜担当教員に確認すること。

【教科書】

吉尾雅春 他 編 「標準理学療法学 神経理学療法学」 医学書院 2013年

【参考書】

道免和久 編 「脳卒中機能評価・予後予測マニュアル」 医学書院 2013年

安藤一也 他 編 「リハビリテーションのための神経内科学」 医歯薬出版 2003年

里宇明元 監修 「神経科学の最前線とリハビリテーション-脳の可塑性と運動」 医歯薬出版 2015年

千野直一 他 編 「脳卒中の機能評価 SIASとFIM」 金原出版 2012年

丹治順 著 「脳と運動 アクションを実行させる脳」 共立出版 2009年

小松哲夫 監修 「神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ」 メジカルビュー社 2019年

【学修の準備】

シラバスを確認し、授業内容に関連する内容について教科書等を用いて重要事項を整理し、ノートを作成するなど予習して授業に臨むこと。（120分）

授業後は配布資料、教科書や引用文献をもとに知識をさらに深め、わからないところは質問するなど復習をしっかりとすること。（120分）

試験前には集中的に授業内容の整理、確認を行い、知識の定着を図ること。（10時間）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

吉田晋（理学療法士）鈴木伸弥（理学療法士）佐藤一成（理学療法士）岩部達也（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

病院での臨床経験にもとづき講義する。